

# 対ブータン王国事業展開計画

2011年6月30日現在

【外交政策上の特記事項等】  
 ●我が国は、ブータンとの友好関係及びブータンが急峻なヒマラヤ山中にある内陸国という困難な条件の下で真摯に開発及び民主化努力を進めていること等に鑑み、ブータンの社会・経済発展に向けた自助努力を支援。  
 ●国民総幸福量(GNH)を基本理念としたブータンの国家開発計画を尊重しつつ、同国の主要課題である貧困削減に向けた支援を実施する。

【援助重点分野】 農業・農村開発													
【開発課題】 農業の近代化	【現状と課題】 貧困層の大部分を農村部が占めている現状にあって、農業技術開発・普及支援、農業機械化が遅れている。農業技術開発・普及に関しては数多くの課題を抱えており、人材の育成が急務とされている。特に、ブータン東・南部はブータン西部と比較して農業開発が遅れており、農家収入及び農民の生活水準が低く、ブータンの開発重点対象地域とされている。なお、ブータンでは、地形的制約、農業機械導入の遅れから、土地単位面積当たりの労働インプットが概して高く、他産業への若年層の労働力移動が加速するにつれ、農村での労働力不足が深刻化している。			【開発課題への日本の対応方針】 農村人口が減りつつも依然として国民の半数を占め、かつ貧困層の割合が圧倒的に多いことから、農業分野に係る協力を引き続き最優先分野として位置付ける。 今後の農業協力については、ブータン全土を視野に置きながらも特に開発が遅れている東・南部地域に重点をおき、技プロとボランティアを中心に生産技術の開発・普及に対し、引き続き支援する。また、農業機械化については、技プロが終了したことを踏まえ、貧困農民支援無償とボランティア派遣等の人材育成も強化する。						支援額 (億円)	備考		
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度			2015年度	
	農業技術開発・普及プログラム	東・中部地域では総合的な農業開発は実施されておらず、同地域で協力を展開することは、地域格差を是正し、バランスのとれた開発を目指すブータン政府の方針にかなうものであるとともに、貧困層を含む農村の生活向上にも資する。当プログラムは持続的農業開発を重視した技プロの実施及びボランティア派遣を中心に協力を行なう。	園芸作物研究開発・普及支援	技プロ							4.50		
			ボランティア(2名)	JOCV									
			ボランティア(4名)	SV									
			農村技術開発プロジェクト	マルチ	●								1.99百万USD
	農業機械化促進プログラム	農業の機械化は、生産の増大のみならず、労力の低減を図る見地からも、農業開発を進める上で必要不可欠である。また、ブータン政府は、農業機械の普及によってもたらされる農村における新たな雇用機会の創出にも期待を寄せている。当プログラムは農業近代化を目標に貧困農民支援による機材供与と技プロ及びボランティアを通じた人材育成との連携を図り協力をを行う。	貧困農民支援	無償							1.31		
			農業機械化強化	技プロ									
			ノン・プロジェクト無償	ノンプロ									2.00
			ボランティア(1名)	SV									
【開発課題】 農業インフラ整備	【現状と課題】 農民の市場へのアクセスが極端に悪い東・中部を中心とした地域は特に貧困層が多い状態となっている。これらの地域は市場へのアクセスが非常に悪く、農村開発のための農村道路建設機械が不足しており、継続した支援が必要とされている。			【開発課題への日本の対応方針】 農村道路拡散分野においては、農道建機拡充に協力を継続するほか、道路建機維持管理に係るボランティアを派遣する。また、農道架橋の設計・施工管理に係る能力向上のため技プロによる支援を行う。なお、貧困農民支援による積立資金を活用した農道建設を継続的に支援するなど、今後はこれらのプログラム間での連携を強化し、総合的に農村開発・貧困支援に取り組む。						支援額 (億円)	備考		
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度			2015年度	
	農村道路拡散プログラム	ブータンの食料自給率を改善しつつ、農民の所得改善を図るためには、農作業の効率性改善による生産性向上に加え、農作業や農産物の出荷のための農村道路整備が重要である。そのため、遠隔地や地方における農村道路整備を支援する。貧困農民支援の見返り資金の利用との連携も進めていく。	第二次農村道路建設機材整備計画	無償							5.97		
			農道架橋設計・実施管理能力向上	技プロ									
			道路建設機材	国別研修									
			ボランティア(1名)	SV									
貧困農民生計支援のための農道整備			マルチ	●						3.0百万USD			アジア開発銀行(ADB)貧困削減日本基金(JFPR)

【援助重点分野】	経済基盤整備											
【開発課題】 道路網整備	<p>【現状と課題】</p> <p>ブータンでは、道路・電力・情報通信といった基本的な経済インフラの整備が遅れており、貧困削減の大きな支障となっている。特にアクセスの悪い農村部では、昔ながらの生活を続けているうちに一部は貧困層となり、開発の恩恵を享受できないままである一方、都市部での開発の進展に伴い、道路・電力・情報通信などのインフラ整備度合いが農村部との間に大きな格差が生じる結果となった。特にブータン東部はアクセスの悪い地域が多く残っており、生活水準の分布は概して西高東低となっている。ブータンにおいては、道路が唯一の輸送手段であり、災害による道路・橋梁の崩壊などの危険も高く、不安定な道路網は開発の阻害要因として深刻な問題である。</p>			<p>【開発課題への日本の対応方針】</p> <p>経済インフラへの支援は農業に次ぐ重要な分野であり、他にドナーも少ないことから日本のプレゼンスが高く、今後も継続して支援を行う。特に運輸・交通分野は、橋梁部門、道路建設機材部門を中心に支援しており、日本のプレゼンス及び評価が非常に高い。これを踏まえ、無償資金協力による同分野への支援を実施していくとともに、ボランティアの派遣を通じ、建設・維持管理技術の移転に努め、ブータン政府の自助努力を促しつつ、南部地域開発など成長のための経済インフラへの協力も視野に入れていく。</p>								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム							支援額 (億円)	備考
	道路網整備 プログラム	効率的・安定的な運輸・交通を確保し、地域の経済活性化を促進するため、無償資金協力による道路網・橋梁整備への支援を行っていく。また、ボランティア派遣により、同分野の人材育成を強化することにより、ブータンの自助努力を促していく。	第三次橋梁架け替え計画	無償							24.94	
			草の根・人間の安全保障無償（1件）	草の根無償							0.09	橋梁建設
			ボランティア（1名）	SV								
【開発課題】 地方の電化促進	<p>【現状と課題】</p> <p>ブータンは豊富な水資源を有しており、水力ポテンシャルは30,000MW以上と推定され、2020年までに10,000MWの水力発電建設計画を掲げている。発電された大部分の電力がインドに輸出される一方、送配電線網の未整備などにより、農村部の世帯電化率は40%に過ぎず、残り60%は未電化である。山岳地帯であるという地形的制約や、散在する居住形態が要因であり、特に遠隔地における電化が遅れている。ブータン政府は2013年までに電化率100%を達成するという政策目標を掲げており、それに向けて送電線の建設だけでなく、小規模水力発電や太陽光発電などの独立分散型電源を活用する計画である。電化は、開発政策を進める上での前提条件であり、地域住民の生活向上に直結するだけでなく、医療、教育、行政を含む社会生活面への裨益効果が望めることから、貧困緩和にも資するため、重要課題の一つとなっている。</p>			<p>【開発課題への日本の対応方針】</p> <p>電力については、無償資金協力による小規模水力発電施設建設、開発調査「地方電化マスタープラン調査」、初の円借款によるブータンの地方電化事業と、一貫して貧困削減を目的とする地方電化を支援してきた。この路線を引き継ぎ、基本的に送配電網構築による地方電化を中心とした協力となっている。円借款事業を補完する形で、技術協力プロジェクトによる人材育成支援など様々なスキームを組み合わせた相乗効果を狙う。</p>								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム							支援額 (億円)	備考
	地方電化促進 プログラム	主に地方農村部において配電網の新設及び改修を支援することにより、電力へのアクセスを改善するため、有償資金協力により支援を進めていく。また、技プロにより、電力の安定供給を確保するための人材育成強化に努め、ブータンの第10次5か年計画に掲げられている2013年までに電化率100%を達成するという目標に貢献していく。	地方電化事業	有償							35.76	
			地方電化事業（フェーズ2）	有償							21.87	
			地方電化促進プロジェクト	技プロ								
地方電化促進プロジェクト（フェーズ2）			技プロ									

【援助重点分野】 社会開発													
【開発課題】 雇用創出に向けた人材育成	【現状と課題】 ブータンにおける社会サービスの中で最も重視されてきた分野は、教育、人材育成、基礎保健であるが、教育施設の不足、職業訓練校の教職員の質の向上など多くの課題を抱えている。ブータンでは国内失業率4.0%(2009年)のうち、55-60%は若年層である。これは、労働力供給が必要に對し多すぎるという絶対数の問題のみでなく、労働市場の需要と供給のミスマッチも問題であり、労働市場のニーズに即した人材育成が急務となっている。			【開発課題への日本の対応方針】 若年層の雇用促進を念頭に、ブータンの労働市場に合致した人材育成を支援していく。労働市場の需要に対応できるような職業訓練システムの改善について、現在実施中の事業の結果を踏まえ、中小企業振興など、雇用促進や労働市場の活性化に係る取組も併せ、今後の支援を検討していく。								支援額 (億円)	備考
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度			
	人材育成及び雇用促進プログラム	ブータンにおける産業の比較優位、労働力のニーズなどを踏まえた人材の育成を目的として、質の高い人材育成への協力を通じて雇用の促進及び産業育成を支援していく。現在実施中の技プロにより、訓練マネジメントの能力向上を目指すとともに、ボランティアによる技術指導などの実施により新規雇用の創出を支援していく。	職業訓練校の質的強化	技プロ								2.80	
			ボランティア(4名)	JOCV									
		ボランティア(5名)	SV										
【開発課題】 教育サービスの向上	【現状と課題】 基礎教育は、過去の開発計画でも重視されてきた分野の一つであり、大きな進展を見せてきたが、初等教育就学率の上昇にともなって生じてきた中等教育へのアクセス改善の必要性及び初等・中等教育の質的改善の必要性が高まっている。			【開発課題への日本の対応方針】 安全な学習環境の提供などを通じ就学率の改善を妨げる要因の解決を目指し、教育施設の整備に対する支援を実施していく。教育の質的改善に関しては、ボランティアによる教員の能力向上、カリキュラムや教材の改善などソフト面での支援を実施していく(教育分野に関しては、日本の教育協力政策2011-2015を念頭に置いた取組を行う。)								支援額 (億円)	備考
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度			
	学校教育改善プログラム	初等教育就学率向上に伴って喫緊の課題となっている中等学校へのアクセス改善のための教育施設の整備を支援していく。また、ボランティアによる理数科教育への支援、体育隊員による体育教育の普及を支援することにより、教育の質的改善に取り組んでいく。	教育施設整備計画	無償								10.64	コミュニティ開発支援無償
			ボランティア(13名)	JOCV									
			ボランティア(2名)	SV									
			ブータンにおける女性と子供を含む社会的弱者に対する基礎教育、識字、収入の安定及び雇用	マルチ	●								2.24百万USD
学校の改善と統合防災教育プロジェクト	マルチ	●								3.0百万USD	アジア開発銀行(ADB)貧困削減日本基金(JFPR)		
【開発課題】 保健医療サービスの向上	【現状と課題】 病院の建設や地域診療所(BHU)の建設などより、乳幼児死亡率、妊産婦死亡率などは大きく改善したが、依然として高く、2008年の乳幼児死亡率は54(出生1,000人当たり)。2005年の妊産婦死亡率は440(10万人当たり)(出所:WHO Global Health Observatory)。医療従事者の絶対数が不足しており、十分な技術指導も行われていない。また、ブータン政府が全国的な救急サービス網の整備に取り組んでいる中で、現在の救急車の老朽化が問題となっている。さらに、1997年に医薬品・ワクチン購入のための保健信託基金を設置し、基礎医療サービスの自立への取組を行っているものの、基金の目標額には未だ達成しておらず、ワクチンの購入については未だ100%ドナーからの支援に頼っている状態であるなど、保健・医療体制は基本的に脆弱性を有している。			【開発課題への日本の対応方針】 保健分野では、UNICEFとのマルチ・バイ協力、感染症対策(拡大予防接種)によるワクチン供与や無償資金協力による母子保健の分野での機材供与、協力隊事業による医療関係者の派遣などを通じて支援を行ってきた。今後は、保健分野の人材の技術指導に注力した協力を進めていくこととし、技術協力プロジェクトやボランティアを通じて本分野への協力を継続していく。また、救急車の更新・整備による医療施設へのアクセスの改善についても支援していく。(保健分野に関しては、我が国の新国際保健政策2011-2015を念頭に置いた取組を行う。)								支援額 (億円)	備考
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度			
	保健医療サービス改善プログラム	技術協力プロジェクトを通じて感染症対策業務関係者の技術指導を行い、感染症対策の自立を支援していくとともに、ボランティアの派遣により、保健医療サービスの質の向上、人材の育成を実施していく。	救急車整備計画	無償								1.61	
			感染症対策	技プロ									
			ボランティア(10名)	JOCV									
ボランティア(1名)			SV										

【援助重点分野】		良い統治												
【開発課題】 地方分権強化	【現状と課題】 ブータンは2008年に国王主導で極めて平和的に民主化を成し遂げたが、成文憲法に基づく議会民主制を定着させるには時間を要する。特に都市部と農村部との格差が広がっていることから、地方分権化は民主化定着の鍵と見られている他、インドからの売電収入の増加に伴い、富の再配分が分権化により均等に行われることが期待されている。			【開発課題への日本の対応方針】 日本に対するグッドガバナンス分野での期待は高く、日本の比較優位が発揮できる部分で引き続き支援を行っていく。地方行政に係る組織強化や地方分権化を担う人材を育成するシステムの構築を支援していく。										
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	支援額(億円)	備考		
	地方分権強化プログラム	ブータン政府が現在進めている地方分権化を支援することを目的とし、技術協力プロジェクト「地方行政強化プロジェクト」を中心にパイロットプロジェクトを展開し、地区・県における各組織の行政機能強化を行っていく。また、技術協力プロジェクトと連携して、地方を中心にボランティアを派遣し、プログラムの強化を図っていく。	地方行政支援フェーズⅢ	技プロ										
			ボランティア(2名)	JOCV										
			青年研修	課題別研修他										青年研修(地方行政)
【開発課題】 情報普及の促進	【現状と課題】 民主化に伴いマス・メディアの重要性も高まっているが、ブータンのメディアの歴史は浅くインフラや人材が不足している。特に放送については、番組制作能力など技術面での課題を抱えている。			【開発課題への日本の対応方針】 民主化支援の観点から、国営放送に対する技術協力を通して、ニュース素材収集力の強化など番組制作などソフト面の支援を実施していく。										
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	支援額(億円)	備考		
	メディア機能強化プログラム	本プログラムは健全な民主化促進の一環として、ボランティア、個別専門家派遣、技術協力プロジェクト及び無償資金協力を通して、長期にわたり放送局に対する協力を行ってきた。技術協力も昨年終了したため、今後は適宜ボランティア派遣等により支援していく。	ブータン国営放送機能強化	技プロ										
			ボランティア(1名)	SV										

【援助重点分野】 その他の支援分野														
【開発課題】	【現状と課題】 ブータンの自然環境は、地球温暖化によるヒマラヤの水河湖の決壊洪水で下流域の住民が被災する危険性が高まっているだけでなく、地震の危険性も高い地域でもある。また、雨期は土砂崩れや洪水、冬期は道路凍結・積雪による通行止めと、自然環境に人々の生活が左右される要因が大きい。2009年5月に発生したサイクロン（アイラ）は各地の道路、橋梁などに大きな被害を与え、現在でも復旧が十分に進んでいない。				【開発課題への日本の対応方針】 我が国は防災に関する豊富な知見と経験を有し、ブータンの防災の取組みに対しても期待されていることから、昨今の国際的関心を集めている水河湖決壊洪水問題に関する研究協力を実施する。サイクロンにより破壊された橋梁などの復旧については、防災・災害復興支援無償、草の根無償資金協力を通じた支援を行うほか、今後の支援を検討する。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	支援額 (億円)	備考		
【特別課題】 南西アジア広域支援	防災管理局への協力の必要性が高まっていること、また、防災対策への協力は、自然災害の多い我が国の知見を活用できることから、技術協力による研究支援を行う。また、サイクロンによる洪水に対する復旧支援を行う。	ブータンヒマラヤにおける水河湖決壊洪水(GLOF)に関する研究	科学技術								2.20			
		サイクロン災害復興支援計画 準備調査	協準											
		サイクロン災害復興支援計画	無償									10.19		
		草の根・人間の安全保障無償（3件）	草の根無償									0.24	護岸整備、橋梁建設、消防車整備	
【開発課題】	【現状と課題】				【開発課題への日本の対応方針】									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	2010年度以前	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	支援額 (億円)	備考		
その他			廃棄物処理専門家	個別専門家										
			債務管理専門家	個別専門家										
			草の根・人間の安全保障無償（1件）	草の根無償									0.08	ゴミ収集車整備
			ボランティア（5名）	JOCV										
			ボランティア(5名)	SV										
			ボブジカにおける地域に根ざした持続可能な観光の開発	草の根技協										
			地方再生可能エネルギー開発	マルチ	●								0.9百万USD	ADB日本特別基金
			気候変動・自然環境委員会の能力強化	マルチ	●								0.7百万USD	ADB日本特別基金
			ブータン・グリーン電力開発プロジェクト	マルチ	●								1.0百万USD	ADBアジア・グリーン・エネルギー基金

【凡例】 「協準」（＝全ての協力準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「技プロ」（＝技術協力プロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協力及び旧来の開発調査）、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修）、「JOCV」（＝青年海外協力隊）、「SV」（＝シニア海外ボランティア）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「科学技術」（＝科学技術協力（技プロ型及び個別専門家型））、「草の根技協」（＝草の根技術協力）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力）、「無償」（＝以下に特記するサブスキームを除く全ての無償資金協力）、「ノンプロ」（＝ノン・プロジェクト無償）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償）、「一般文化」（＝一般文化無償）、「草の根文化」（＝草の根文化無償）、「有償」（＝円借款）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム）、実線「——」（＝実施期間）、破線「----」（＝実施予定期間）、黒丸「●」（＝マルチの事業承認年度）